

疾病治療学概論

必修

開講年次：2年次前期

科目区分：演習

単位：1単位

講義時間：30時間

■科目のねらい：人の健康を損ねる疾病には、共通した発生の要因があって、いくつかの疾病では症状も似ている。そこで、本科目では、諸臓器における疾病発生の基本的な仕組みを学ぶ。この科目は、治療と看護を考える上できわめて重要である。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。

■到達目標：基礎医学と臨床医学を結びつける授業である。下記の疾患の病理・病態を中心に授業を行う。臨床の現場で、このような疾病を持つ患者の看護に携わるときに役立つ知識と考え方を習得することが到達目標である。

1. 循環器系の病理学用語の定義を言える。
2. アテローム性動脈硬化症の病因と血管を閉塞するに至る過程を説明できる。
3. 狭心症、心筋梗塞の診断法と治療法を説明できる。
4. 左心不全と右心不全の病因、症候と発症機序を説明できる。
5. アタム・ストークス症候群の定義とこれを引き起こす不整脈を説明できる。
6. 高血圧症の定義と原因、発症要因、治療薬を説明できる。
7. ファロー四徴症の発生学的原因と症候を説明できる。
8. 閉塞性肺疾患（気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患COPD）と拘束性肺疾患（間質性肺炎、肺線維症、塵肺症）の違いを説明できる。
9. 気管支喘息とCOPDの病因と症候、呼吸機能検査所見、病理学的所見を説明できる。
10. 肺結核症の病因と特徴的な病理学的所見、症候を説明できる。
11. 肺癌の組織型分類と好発部位、癌の特徴を説明できる。
12. 新生児呼吸窮迫症候群の病因を説明できる。
13. 急性糸球体腎炎の病因と症候、発症機序を説明できる。
14. IgA腎症の病因と症候、発症機序を説明できる。
15. ネフローゼ症候群の定義と原因となる疾患を説明できる。
16. 腎不全の定義と症候、発症機序を説明できる。
17. 尿路結石症の病因と症状を説明できる。
18. 尿管管腫（ろう）の発生学的病因と症状を説明できる。
19. 呼吸性・代謝性アシドーシスと呼吸性・代謝性アルカローシスの原因を言える。
20. 小児と高齢者は脱水になりやすい理由を言える。
21. 熱中症の症候を重症の程度に応じて説明できる。
22. ショックの症候と発症機序、治療を説明できる。
23. 熱傷（やけど）の重症度を判定できる。
24. 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、腎性貧血の病因と検査所見を言える。
25. 急性白血病と慢性骨髄性白血病、成人T細胞性白血病の病因、症候、予後を説明できる。
26. 特発性血小板減少症の症候と発症機序を説明できる。
27. 血友病の病因と症候を説明できる。
28. DIC（播種性血管内凝固症候群）の病態と原因となりうる疾患を説明できる。
29. 炎症の四徴と病理学的裏付けを言える。
30. 急性炎症の治癒過程である肉芽組織を説明できる。
31. 慢性炎症による肉芽腫を説明できる。
32. アレルギー反応I～IV型の原因と発症機序を説明し、具体的な例を挙げることができる。
33. 自己免疫疾患（SLE、関節リウマチ、シェーグレン症候群、強皮症、パーチエット病）の症候と発症機序を説明できる。
34. 後天性免疫不全症（エイズ）の病因と症候、発症機序、予後を説明できる。
35. 移植片対宿主病の病因と症候、発症機序を説明できる。
36. 逆流性食道炎、食道癌、胃潰瘍、胃癌、十二指腸潰瘍、イレウス、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌の病理学的特徴と病因、症候、発症機序を説明できる。
37. 肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病の発生学的原因と症候を説明できる。
38. A型、B型、C型ウイルス性肝炎の病因と、肝硬変、肝臓癌へ進む割合を説明できる。
39. 門脈圧亢進症の症候の発現機序を説明できる。
40. アルコール性脂肪肝を説明できる。
41. 胆石症の種類、症候を説明できる。
42. 急性肝炎、慢性肝炎、肝癌の病因と症候、発症機序を説明できる。
43. 先天性胆道閉鎖症の発生学的原因と症候を説明できる。
44. 溶血性黄疸と閉塞性黄疸における血中直接ビリルビン濃度、尿中ウロビリノーゲン濃度を説明できる。
45. 脳血管障害（一過性脳虚血発作、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）の病因と症候を説明できる。
46. アルツハイマー病にみられる脳の病理学的変化と症候を説明できる。
47. 動脈硬化性認知症の症候の特徴を言える。
48. パーキンソン病にみられる脳の病理学的変化と症候を説明できる。
49. クロイツフェルト・ヤコブ病の病因と症候、予後を説明できる。
50. 髄膜炎の症候と必要な検査を説明できる。
51. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病因、症候、予後を説明できる。
52. ギラン・バレー症候群の病因、症候、予後を説明できる。
53. 重症性筋無力症の病因と症候を説明できる。
54. テュシエンヌ型筋ジストロフィーの病因、症候、予後を説明できる。
55. 変形性関節症の病因と症候を説明できる。
56. 骨粗鬆症の病因と骨折の多い部位を言える。
57. 閉塞性動脈硬化症とパージヤー病の危険因子と症候を説明できる。
58. 周期性四肢麻痺の病因と症候を説明できる。
59. 内分泌器疾患（巨人症、先端巨大症、シーハン症候群、尿崩症、バセドウ病、クレチン病、粘液水腫、テタニー、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、アジソン病、褐色細胞腫）の病因と症候を説明できる。
60. 前立腺肥大症と前立腺癌の症候と発症機序を説明できる。
61. 前立腺癌の腫瘍マーカーを言える。
62. 子宮体癌、子宮頸癌、子宮筋腫の症候と発症機序、治療を説明できる。
63. 乳癌の好発部位、発症要因、治療を説明できる。
64. 糖尿病I・II型の病因、病態生理、症候、治療を説明できる。
65. 痛風の病因、病態生理、症候、治療を説明できる。
66. 麻酔法の基礎知識を習得する。

■担当教員：【◎は科目責任者】

◎高野 廣子・伊東 義忠

■授業計画・内容：（ ）内の数字は到達目標の該当項目を示す。

第1回 循環器疾患1 (1~3)	第6回 血液・造血管疾患 (24~28)	第11回 運動器疾患 (52~58)
第2回 循環器疾患2 (4~7)	第7回 免疫・アレルギー疾患 (29~35)	第12回 内分泌疾患と生殖器疾患 (59~63)
第3回 呼吸器疾患 (8~12)	第8回 消化管疾患 (36, 37)	第13回 代謝疾患 (64, 65)
第4回 泌尿器疾患 (13~18)	第9回 肝臓・胆道・膵臓疾患 (38~44)	第14回 麻酔法1 (66)
第5回 体液の乱れ (19~23)	第10回 脳の疾患 (45~51)	第15回 麻酔法2 (66)

■教科書：『臨床病態学』第1・2・3巻（ヌーヴェルヒロカワ）『周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護』（医学書院）

■参考文献：『器官病理学改訂14版』（南山堂）

■成績評価基準と方法：第2～13回目の授業の最初に、その日の授業に関連する解剖生理学の小テストと、前回の授業に関連する臨床病理病態学の小テスト（復習内容）を行う。成績評価は定期試験と小テストの結果および受講態度に基づいて行われる。定期試験（学期末）60%、小テスト30%、受講態度10%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	解剖生理学の知識の確認	臨床病理病態学 1~65	麻酔法の基礎知識 66		
定期試験		◎	◎	6割以上	60%
小テスト	◎	◎		5割以上	30%
受講態度		◎		授業への集中度	10%
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■関連科目：看護観察技術論、薬理学、病理病態学、感染予防論、基礎看護技術論、生命科学、環境保健、人間工学、臨床栄養学、疾病治療学A/B/C、症状マネジメント論、成人看護学概論、成人看護援助論、成人看護技術論、成人看護学臨床実習I、臨床薬理学、老年看護援助論、老年看護技術論、がん看護学、小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護技術論、母性看護援助論、母性看護学臨床実習、透析ケア、重症集中ケア、救急看護学、認知症ケア

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：この科目では、筋道だった考え方（論理的思考）を身につけることに重きを置く。論理的思考には幅広い豊かな知識が必要である。ここでは解剖生理学と病理病態学の知識を土台にして、症候と治療、看護を考えていく。